

科目名	情報処理基礎Ⅱ Fundamentals of Information Processing Ⅱ			担当教員	重田和弘			
学年	2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2	
分野	専門	授業形式	講義・実習	科目番号	12132007	単位区分	履修単位	
学習目標	目標区分(B)：知識－科学技術の基礎知識と応用力 1. C言語を用いたプログラミングの基礎を習得する。 2. コンピュータとインターネットを利用するうえでのルールとマナーを理解する。							
進め方	プログラミングの説明と実習を交互に行い授業を進める。実習では、4～6時間程度で自主的にプログラミングを行う機会を設け、作成したプログラムについて報告書を提出させる。							
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標				
	1. ガイダンス(1) 2. コンピュータを利用するうえでのルールとマナー(2) 3. プログラムの作成方法(5) 4. 入出力と演算(6) [前期中間試験] (2)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータとインターネットを利用するうえでのルールとマナーを理解できる。</li> <li>・プログラム開発環境の操作方法を理解し、簡単なプログラムを作成できる。</li> <li>・入出力処理と演算を用いた簡単なプログラムを作成できる。</li> </ul>				
	試験返却・解説(1) 5. 分岐と繰り返し(13) (1) if-else 文 (2) for 文			<ul style="list-style-type: none"> <li>・if-else 文、for 文を用いた簡単なプログラムを作成できる。</li> <li>・分岐と繰り返し処理を含む簡単なフローチャートを書き、そのプログラムを作成することができる。</li> </ul>				
	前期末試験							
	試験返却・解説(1) 5. 分岐と繰り返し（つづき）(3) (3) While 文 (4) do-while 文 (5) switch 文 6. 総合演習Ⅰ(4) 7. 配列(6) (1)一次元配列 (2)多次元配列 [後期中間試験] (2)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・while 文、do-while 文、switch 文を用いた簡単なプログラムを作成できる。</li> <li>・分岐と繰り返し処理を用いたプログラムが作成できる。</li> <li>・一次元配列を用いたプログラムを作成できる。</li> <li>・多次元配列（3次元以下）を用いたプログラムを作成できる。</li> <li>・配列を用いて、ソートプログラムを作成できる。</li> </ul>				
	試験返却・解説(1) 8. 文字列(3) 9. 総合演習Ⅱ(6) 10. まとめ(4) 後期末試験			<ul style="list-style-type: none"> <li>・文字列の入出力処理を行う簡単なプログラムを作成できる。</li> <li>・代表的な文字列関数を使用して、文字列処理を行う簡単なプログラムを作成できる。</li> <li>・分岐、繰り返し処理、配列・文字列処理を用いたプログラムが作成できる。</li> </ul>				
	試験返却・解説(1)							
	評価方法	評価の内訳は、定期試験の成績を70%、プログラミング実習（レポートを含む）の成績を30%とする。						
	履修要件	特になし						
	関連科目	情報処理基礎Ⅰ（1年） → 情報処理基礎Ⅱ（2年） → 情報処理基礎Ⅲ（3年）						
教材	教科書：黒瀬能幸、福田之介、「やさしく学べるC言語」、森北出版							
備考								